

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501845		
法人名	有限会社 ユアスタッフ		
事業所名	グループホームみなみの里		
所在地	札幌市南区藤野3条10丁目1番25号		
自己評価作成日	令和2年1月17日	評価結果市町村受理日	令和2年7月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和2年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.恵まれた環境 藤野公園に面した建物からは、公園内の樹木や、近くのスキー場を望むことができ、緑豊かな環境の中に位置しています。民家を改修した建物は、どこか懐かしく落ち着いた家庭的な雰囲気があり、居室は広くゆったりと生活をエンジョイしていただいています。広い敷地内にある日本庭園には、小鳥やリスなどの小動物も訪れ、散策したり、果実や野菜を収穫したり、花を摘んだり、自然にふれながら四季を感じることができる癒される環境でのびのびと生活をしています。
2.生活の質の向上への取り組み 一人ひとりのライフスタイルを尊重しつつ、「生活の質」向上に向けて、様々なアクティビティに取り組んでいます。身体機能の維持の為に各種体操や球技等、皆が楽しみながら取り組める内容となっています。手芸、工作、カラオケ等それぞれの趣味や好み、力に応じ、喜びと潤いが感じられるよう支援しています。
3.健康と食生活 「健康」と「食生活」には密接な関係があり、バランス良い栄養摂取とバラエティ豊かな献立作りに努めています。全て手作りの職員の愛情のこもった料理は、昔ながらの料理、現代風な料理、個人の希望する「○○様メニュー」、皆でワイワイ囲み賑やかに楽しむ「ワイワイメニュー」やガーデンなども利用し楽しめる演出も心がけています。利用者が買物同行し食材選びをし、菜園から収穫し、調理、盛り付け、配膳したりと、食にかかわる事により、食欲増進に繋がりを元気の源となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) 経営の基本(環境・資格構成・設備管理等)事項：職員は利用者本位の姿勢と研鑽に努め、専門資格構成も高く、施設・設備環境を整え、多様な行事計画・食と健康の留意に努めている。
2) 職員の姿勢・態度：事業理念に順応して、研鑽に努め、利用者・家族へ優しく、丁寧な説明や対応とともに、事業の進捗状況報告も適切に行っている。
3) 家族等の好感：職員が利用者や家族に真摯な態度で、変わりなく丁寧な説明や介護に徹し、個々の利用者への食事や日常の健康状態や行事等の設定に家族等は好感している。
4) 運営推進会議開催状況：会議は定例に開催し、地域関係者・機関の参加の下に、運営状況を詳らかに報告して、参加者の意見を運営に反映している。
5) 地域組織・機関の連携：地域が共有する公園等の環境を活かし、地域組織・機関との連携を強化して理解を得るとともに、関係者の参加を得て意向を反映している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元との関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に沿った行動指針をふまえ、チームの方向性や価値観をひとつにし日々ケアに反映している。施設内研修や年度目標設定時には理念の振り返りや具現化を行ない実践に繋げている。	職員は「高齢者への敬意と個々の人格・人柄を尊び、日々の潤いある生き方や家族・地域との連携ある生活を支える」との理念を遵守し、真摯に専門的介護・医療の技術を研鑽して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の協力を得ながら、利用者は地域の一員として地域の行事や花壇整備などに可能な限り参加し交流を深めている。	藤野白樺町内会等、地域の組織・機関との連携の下に、地域行事や環境美化に努め、また施設の花壇作りをともにするなど、利用者の生活環境に活かした連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの電話相談、施設の見学時やボランティアの受け入れなどで、認知症に対する正しい知識や、理解、経験を通して得られた支援方法を伝えていけるよう努めている。又、運営推進会議では毎回テーマを決めた認知症関連の情報提供をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月毎の運営推進会議では生活リポートとして、利用者の健康状態や活動の状況、行事等の報告を行なっている。また、介護情報や法人としての取り組み等、多様なテーマでの報告を行ない、福祉や事業所の理解を深めていただく機会としている。参加者からの情報、意見の交換で良質のケアに繋がるよう努めている。	会議は地域組織・機関の代表者の参加を得て、定例に開催している。運営上の課題や状況を詳らかに説明して、地域の理解を得るとともに、関係者の意見を運営に反映するよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市や南区のグループホーム管理者連絡会、南区保護課、地域包括支援センターなど、市や区の担当者と連携を密にし、情報交換やケアの取り組みを伝え、協力関係を築き、事業所のあり方を見直す機会を得ている。	行政各機関との密接な情報交換に努めるとともに、南区グループホーム連絡会での協議内容をホームでの全体会議で報告し、運営や介護活動の課題解決に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、委員会が中心となった研修会や地域の研修会で学ぶ機会がある。利用者の思いや行動を日頃から理解し、心身の拘束をしない尊厳ある自由な生活を支援するよう努めている。	身体拘束委員会を定例に開催しており、介護の個々の日常の解決課題を振り返り、介護の基本姿勢の徹底を図っている。人格の尊厳を損なうことのない利用者本位の介護に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の勉強会を定期的に実施し、周知徹底に努めている。ホーム内において「絶対に起こさない」「見逃さない」「許さない」を合言葉に実践し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修での伝達講習や社内研修において学ぶ機会を得て全職員が制度の理解を深めている。成年後見制度を活用している利用者を通して実践で学び、さらに有効に活用できる支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は十分に時間をとり、利用者や家族の不安や疑問点等には十分な説明を行い、理解・納得・同意を得た上で手続きを進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、家族や利用者が意見や要望を表出できるよう、話しやすい雰囲気作りと良好な関係作りにも努めている。面会・敬老会・誕生会などでは意図的に意見交換の場を設け要望等については真摯な姿勢で受け止め、事業所の質の向上につなげるよう努めている。	利用者や家族の意向を確かに受け止め、個々の状態に即応する丁寧な支援に努めるとともに、多様な行事計画に基づく寛ぎの場や集いの機会を大切に、結果を家族に状況報告して、理解に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の場や全体会議、日々のコミュニケーションの場面で運営に関する話題を述べやすい機会を設けており、職員からの要望や意見、提案などは、事業所の更なる向上にむけ反映するよう努めている。	定例の全体会議での相互の情報交換や、日常の申し送りを記録に留めて、業務の確実な進捗を確認し、業務上の意見を運営に反映している。人事考課での個別面談と自己評価等での意向も、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課システムにて、個々の日頃の努力や実績が給与水準アップに反映され、各自が向上心とやりがいを持って就業できる職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の力量や段階に応じ、外部研修を受講する機会を設け職員の意欲を高めている。また、社内研修で職員がテーマを持って発表する場を設け、スキルアップやモチベーションの向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク「ふじねっと」や札幌市や南区のGH管理者連絡会主催の勉強会にて、同業者と交流や学び合う機会をもち、多くの情報を得たり意見交換をすることにより、サービスの質の向上への取り組みに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に「ライフヒストリー」、「フェースシート」等で本人のおかれている状況、不安などを把握したうえで、本人の心に寄り添い、傾聴、受容の姿勢で良き理解者となり「安心」と「信頼関係」の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めていることや不安に思っていることを表出しやすい雰囲気作りをし、充分に話を伺い、共に利用者をサポートしていく支援者としての良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時は本人や家族の意向を十分にくみ取り、又、どのようなサービスを望んでいるのか必要なかを把握し、支援の優先順位を見極めている。利用者の意思を尊重しながら他のサービス利用についても考慮し柔軟にサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者の経験してきたことや、本人の得意分野で力を発揮して頂き日々学びを得ている。協働しながら生活する関係作りを大切にしている。喜怒哀楽を共有することで、感謝し合える関係作りになるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム来訪時は、本人の日々の暮らしの様子や出来事を細かく伝えながら、家族の意見や思いも理解し、家族と利用者の良質な関係作りが継続できるよう、共に支える一員として協力し合える関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・知人・友人などの来訪を心から歓迎し、寛げる場を提供している。本人が制作した絵手紙や年賀状、カードを投函し、関係が途切れぬよう配慮したり、馴染みの場所に出かけられる工夫や協力をし、良好な関係継続の支援に努めている。	家族等・知人・友人の積極的訪問を歓迎して、応接対応に活かすとともに、利用者個々への支援も手厚く配慮している。馴染な場所訪問等への工夫や協力を得て、意向に沿えるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日の中で和やかに楽しく過ごせるアクティビティの時間を設け、一緒に生活する利用者同士の良好な関係が構築されるよう努めている。職員が調整役となり、コミュニケーションが円滑に図れ、安心して居心地良く、孤独と感じることがなく暮らせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要とされる場合は可能な限り情報提供を行ない、気軽に立ち寄ってもらえるような関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の思いや希望を察し、それぞれの意向に添えるよう努めている。「日々アセスメント」を意識している。困難な場合でも、本人の立場になって検討している。	入所後のアセスメントに留意して、その過程をふまえ、職員相互が共有に努めている。家族の意向も取り入れ、利用者の意向や思いの把握に努めて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書、ライフヒストリーなどから入居前の個々の利用者のライフスタイルを把握するよう努めている。入居後もご家族やご本人の友好関係等、多方面から情報を収集し、ケアに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に残し、職員間で情報を共有している。利用者の生活リズムに合わせ、日々の生活の中から心身の状況や精神状況を把握し、有する力を見出すように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で得た利用者の思いやご家族の意見などをサービス担当者会議を通じ意見交換し、反映している。本人がより良く暮らすための利用者主体の介護計画作成に努めている。	利用者個々の定例の計画の見直しや即応した変更計画等の作成には、日常の諸会議の協議結果を活かすとともに、利用者・家族の意向を捉えた計画作成を実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の生活の詳細な様子が記入されており、職員間で共有する事ができる。また、サービスの実施にはチェック項目があり状況と達成度を把握することかでき、見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの要望などには、できる限り柔軟に対応している。既存のサービスに捉われない、ご家族やご本人の状況や時々のニーズに応じ柔軟な支援をし、サービスの向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアとの交流や地域の行事への参加、地域のスーパーや近隣の直売所への買物など、持っている力を発揮し、自信や生き甲斐、楽しみにつなげ、心豊かに生活できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な往診があり、緊急時の対応や相談などの支援がいつでも可能である。家族や利用者がかかりつけ医の診療を希望する場合は、家族や利用者の意向を尊重した支援に努めている。	利用者のかかりつけ医があれば、それを支援している。日常は協力医療機関の定期的診療等による医療上の健康管理や、個々に応じた医療・介護の連携に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の日常の細かな変化に気づき看護職員に報告、連絡、相談をし助言を受けている。利用者の状況に応じた対応を支援している。在宅診療医とは医療連携報告書による事前の情報提供や電話にて健康状態や健康管理について相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法を医療機関に情報提供し、入院によるダメージが最小限に留まるよう関係者と情報交換をおこなっている。又、早期退院に向け、情報の共有に努め協議を重ね良好な関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい	入居契約時には「重度化した場合の対応指針」の書面を交付している。家族の希望や意向を早い段階から伺い、本人とは日常のさりげない会話の中で表出できる場面作りをしている。終末期については、病状の変化に伴い随時話し合いの場を設け、その都度方針を確認しあっている。	重度化に伴う対応指針は、契約時に関係者相互で確認するとともに、心身の変化等に即応する協議を進めるなど、状況に応じた対応で家族等の理解に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内外での救命救急講習や勉強会により、全ての職員が緊急時に瞬時に対応できるよう実践力を身につけている。緊急時対応マニュアルも直ぐに活用できる場所に備え、緊急連絡、対応などの周知徹底に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力をうけて、年2回避難訓練を実施している。又、社内研修などで、火災、地震、水害等の非常時の対応方法を確認している。また事業所独自で様々な場面を想定したシュミレーションを行っている。運営推進会議の場などで、非常時に地域の方の協力が得られるよう呼びかけ協力体制を築いている。	ハザードマップを参考に職員相互での研修に努めるとともに、官署の協力を得て年2度の想定訓練や独自の想定シュミレーションで再確認している。また、運営推進会議でも多様な防災について関係者の意見を交換する等、協力体制の強化や備品備蓄等への配慮に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所理念である「利用者ひとり一人の人格、人間性を尊重します」を合言葉に、ひとり一人の誇りを傷つけないように、職員が声かけの内容や工夫、口調に注意し、プライバシーを損ねないケアを実践している。	ホーム理念の職員相互での共有を確認(会議等で)し、利用者個々の人柄や個性を受け止めて、その「尊厳や誇り」を損ねることのない言葉かけや、意向把握に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から信頼関係を構築し、意思表示しやすい関係性を作り、思いや希望などを把握できるように努めている。自己選択、自己決定ができ、主体性をもって生活が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のライフスタイルを重視し、利用者のベースにあわせ、その日の状態や本人の要望に配慮しながら、個性のある、その人らしい暮らしの支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容による整髪、食後の口紅やお化粧、好みの洋服の選択、外出時のお洒落など、利用者の希望やアドバイスをしながら、その人らしい身だしなみやお洒落で楽しみや喜びが感じられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中から得意だった料理や好みの食材を伺い、本人メニューの日を設け楽しみがもてるように努めている。畑での野菜の収穫、買物同行にての食材選び、調理、盛り付け、配膳、食器拭き等一緒に係る事により、より豊かで楽しい食事となるよう支援している。	「食事に工夫が凝らされ、おいしい食事に満足している」との家族の声がある。食事が利用者個々の健康・嗜好、季節感、盛り付け、自作の野菜にも留意した楽しい食事支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療との連携による、個別の食事内容、食事量、栄養バランスを考えたメニューにより健康管理の面で支援している。個別の水分量や食事摂取量を記録し把握する事により1日を通して必要量が確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアマネジメント計画書に添った、歯科医師・歯科衛生士からの口腔衛生管理にかかわる助言を職員が受け、個々の能力に応じた口腔ケアと職員の口腔ケア介助により、口腔内の衛生状態を保つ支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により利用者ごとのリズムを把握し、必要な場合はさり気なくトイレ誘導している。重度化しても便座に座っての快適な排泄ができるよう支援している。	排泄の自立支援を基本に、日常生活での個々の排泄リズムを職員が共有して、自然な誘導を心掛けている。また、重度化が進んでも、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、個々の排便状況を把握している。職員は便秘による精神的影響・肉体的影響を理解し食事内容の工夫と水分確保、朝の牛乳、ヨーグルトの摂取、適度な運動により、極力服薬に頼らず、自然な排便につながるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調、気分に合わせて入浴時間の設定をしている。冬期間は、「温泉の日」を設け、日本全国の温泉の湯で心も体も温まって頂き、ゆっくりとコミュニケーションを取りながら入浴が楽しめるよう支援している。	冬季間の「温泉の日」の設定など「楽しめる入浴の試み」を工夫するとともに、利用者の心身の状況や気分を汲み取り、楽しく入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時刻には職員による「タクティールケア」や「手摺り運動」などの適度な運動と癒しで、安眠につながるよう支援している。個々の生活習慣を尊重しながら、その日の体調に応じ、休息と活動のバランスを考慮した支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性や副作用について勉強会などで理解を深め、個々の処方薬の目的・副作用・用法・用量を確認し、正しい理解ができるよう努めている。処方薬の変更時は、看護師からの申し送りや申し送りノート、服薬明細書にて確認できる体制をとり、症状の変化に早期に対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの持っている力を見極めたうえで、負担にならない程度の役割や、趣味や楽しみごとで、張り合いや気晴らし、自信と喜びにつながるよう支援している。時には庭に出て外気浴やティータイムなどで気分転換をし季節を感じていただくよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、利用者の希望を把握できるよう心がけている。天候や気温、体調に配慮しながら、本人の希望も取り入れ、公園や近隣への散歩、庭や畑、地域の直売所、買物同行、地域の行事などに出かける機会を多くもつように努め、外出への喜びを感じていただいている。	近隣の藤野公園や近隣の散歩や、畑・花壇作り、地域行事の参加、日々の買い物を楽しむなど、利用者個々の心身の状態に応じた外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら利用者個々の力に応じて所持が出来るよう支援している。買物同行時は自分で品定めや支払をして、購入する喜びを感じていただき、社会性の維持にも努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の力に応じて、電話の取次ぎや手紙の郵送の支援をしている。生活レクの中で作成した絵手紙やぬり絵ハガキ、年賀状などを、職員の方から意図的に働きかけてご家族や知人などに投函する機会を設け関係性の継続に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にいるような家庭的な雰囲気空間からは広い庭を眺めることができ、季節の移り変わりを感じる事ができる。共用空間には壁面装飾や季節ごとの制作作品などで季節感を演出し居心地よく過ごせるよう配慮している。温度、湿度、陽射しなど環境整備にも配慮している。	ゆとりある建物のつくりは陽射しも良好で明るく、庭の眺めも楽しめる家庭的な雰囲気づくりに努め、共用空間には壁面装飾や作品を展示して、季節感を味合えるよう配慮している。また、温・湿度や陽射しへの対応等、清掃も含め、適切な環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂の他に自由に寛げるホールがあり、広々とした空間の中で歌の会や作品作りなど共通の趣味を持った利用者が集ったり、自由にゆったりと気兼ねなく過ごせるように工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居室には本人の馴染みの物を持ってきてもらい、思い出深い馴染みの物に囲まれ、安心し、居心地の良く、落ち着いて暮らせるよう、環境づくりを心がけている。リロケーションダメージを最小限に留める工夫をしている。	個々の居室は家族の協力も得て、馴染みの家具、置物、家族写真等で、安らぎある居心地良い雰囲気に包まれ、落ち着いた環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段、トイレ、浴室などに手摺りを設置し、動線を考え安全に移動できるよう工夫している。2階に居室がある利用者も、自分の力を発揮して階段昇降し、下肢筋力の維持に繋げている。		